

# 第3学年 国語科学習指導案

平成29年12月1日(金)

場所 教室

- 1 単元名・教材名** 論旨を捉えて  
「作られた『物語』を超えて」(光村図書『国語3』)

## 2 生徒の実態と本単元の意図

(1) 本単元に至るまでの指導の系統

育成すべき国語の能力 【指導事項(読むこと)】	学習内容	単元・教材名 (実施時期)	学習活動と関連する 他領域等の指導
<ul style="list-style-type: none"> <li>文章の中心的な部分と付加的な部分、事実と意見などを読み分け、目的や必要に応じて要約したり、要旨をとらえたりすること。</li> </ul> <p>【1年イ】</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>仮説</li> <li>図表の役割</li> <li>事実と意見の違い</li> </ul>	項目を整理して伝えよう 『シカの「落ち穂拾い」—フィールドノートの記録から—』 (1年10月)	<p>【書くこと】</p> 説明のしかたを工夫する <ul style="list-style-type: none"> <li>自分の立場及び伝えたい事実や事柄を明確にして、文章の構成を工夫すること。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>文章全体と部分との関係、例示や描写の効果、登場人物の言動の意味などを考え、内容の理解に役立てること。</li> </ul> <p>【2年イ】</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>問い、事実、考察</li> <li>図表の役割</li> </ul>	多様な視点から 『生物が記録する科学—バイオリギングの可能性』(2年6月)	
<ul style="list-style-type: none"> <li>文章の構成や展開、表現の仕方について、根拠を明確にして自分の考えをまとめていること。</li> </ul> <p>【2年ウ】</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>論の展開</li> <li>叙述の工夫</li> <li>抽象語</li> </ul>	納得度何パーセント？ 『モアイは語る—地球の未来』 (2年10月)	
<ul style="list-style-type: none"> <li>文章の論理の展開の仕方、場面や登場人物の設定の仕方をとらえ、内容の理解に役立てること。</li> </ul> <p>【3年イ】</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>説明の順序</li> <li>見出しの効果</li> <li>図表の役割</li> </ul>	視野を広げて 『月の起源を探る』 (3年6月)	

## (2) 生徒の実態と本単元の意図

### ①生徒観

( 一部省略 )

生徒は説明文『ダイコンは大きな根?』『ちょっと立ち止まって』、記録文『生物が記録する科学～バイオロギングの可能性～』を通して、問題提起や説明、主張などの段落の役割と序論・本論・結論の型を学んだ。また、事実と推論、筆者の主張は文末表現に着目すると読み取れることを学んでいる。文章の構成を理解させるために、段落相互の関係・抽象的な意味をもつ語句と具体的な意味をもつ語句の区別・文末表現の3点に着目すること、また、語彙力向上のために教科書巻末に収録されている「語彙集」と辞書を活用することを意識して授業を展開してきた。

生徒が論説文に触れる機会は非常に少ない。説明文は小学校から扱ってきているが、本単元の学習に至るまでに生徒が読んだ論説文教材は一つだけである。第2学年「モアイは語る～地球の未来」では、筆者の主張を読み取り、主張に説得力をもたせるには根拠が必要であること、根拠を述べるには事柄を順々に＝筋道を立てて説明することが効果的であることを学んだ。

説明文(論説文)は難しい…「モアイは語る～」学習後の生徒の感想である。日常生活において文字を媒体としたコミュニケーションとして生徒が用いるツールは SNS が主流となっている。SNS において重要視されるのは筆者(送信者)の思いや感想であり、回りくどい説明は敬遠される傾向にある。事実—理由—主張という論理展開をとらえる経験不足が前述の感想につながるものと考え。接続詞や指示語に注意して読むこと、キーワードに着目して読むことを助言しながら、具体例の一般化の過程を読み取らせたい。

### ②教材観

本作品は「物語」というキーワードを軸に、ゴリラの事例から、人間の文化や社会全体の事例に発展させ、最後に自らの主張をまとめている。筆者の考えを表す語句や論理展開に着目させることで、主張をとらえ、さらに多様な読みへと思考が深まる文章である。言葉をもった人間は「物語」を作らずにはいられない生き物である。「物語」によって人は救われることもあるだろう。しかし筆者は、誤解に基づく「物語」は動物や人間自身に悲劇をもたらすことがあると述べる。この文章は、長年ゴリラの研究を続けてきた筆者が人間社会を考察し、言葉をもったがゆえの光と影に触れ、「ものの見方」について説いた文章である。誤解に基づく「物語」は生徒自身の周りにもたくさんあることだろう。身近な例から民族間の争いなど現代の世界情勢にも当てはまる内容である。

### ③指導観

論説は筆者の主張が客観的な根拠に基づいて論理的に述べられた文章である。論の過程で筆者がどのような事実や事例を取り上げ、それらをどのように考え、自身の主張に結び付けているかを検証することが大切である。その論の展開が適正であって初めて、筆者の主張が説得力をもつといえる。こうした、事実・事例—理由付け—主張の関係性は、三角ロジックなどと言われることもある。これまで、説明的な文章では、事実と考えを分けて

読む、中心的な部分と付加的な部分を区別して読む学習をしてきた。そうした学習を振り返りながら、論の展開に着目した読み方を身に付けさせたい。論の展開の仕方や説得力のある述べ方の工夫を確かめながら読みを深め、筆者の主張、論説文の読み方の基本を身に付けさせたい。さらに、本作品の読解を通して、筆者の主張に納得できるかどうか自分の考えをもつことができるようにしたい。

なお、本単元の導入として、過日行われた衆院選における各政党のマニフェストを読む活動を行う。主張のためには根拠（理由付け）が大切であることを確認し、論説文の読み方が実生活に生きてはたらくという点に気付かせたうえで単元の学習に入り、生徒の主体的な学びを引き出したい。また、単元の終末では、教材文で学んだ「主張と根拠のつながった文章の書き方」を生かし、「平和な社会の構築に向けて」をテーマに意見文を書かせる。教材文から習得したことを、自分で意見文を書くことによって活用するためである。この単元のゴールを、単元を通して生徒に意識させ、自分で意見文を書くために教材文から筆者の論の展開の仕方や説得力のある述べ方の工夫を学び取るという目的意識をもたせて指導する。

これらの学習を通して、「C 読むこと」の指導事項「イ 文章や論理の展開の仕方、場面や登場人物の設定の仕方をとらえ、内容の理解に役立てること」、「エ 文章を読んで人間、社会、自然などについて考え、自分の意見をもつこと」の実現を図る。

### 3 単元の目標

- (1) 筆者の主張と事例の関わりについて知り、筆者の主張に対して自分なりの考えを広げようとしている。(関心・意欲・態度)
- (2) 筆者の考えを表す語句や論理の展開に着目して主張をとらえ、書かれた内容を理解することができる。(読むこと)
- (3) 筆者のものの見方や考え方を踏まえて、人間、社会、自然などについて自分の考えをもつことができる。(読むこと)
- (4) 筆者の独自の言葉の使い方や意味に気付き、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。(伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項)

### 4 単元の評価規準と学習活動に即した評価規準

	ア 国語への関心・意欲・態度	エ 読むこと	オ 言語についての知識・理解・技能
単元の評価規準	<ul style="list-style-type: none"> <li>・筆者の主張と事例の関わりについて知り、筆者の主張に対して自分なりの考えを広げようとしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・筆者の考えを表す語句や論理の展開に着目して主張をとらえ、書かれた内容を理解することができる。</li> <li>・筆者のものの見方や考え方を踏まえて、人間、社会などについて自分の考えをもつことができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・筆者の独自の言葉の使い方や意味に気付き、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。</li> </ul>

学習活動に即した評価規準	<p>①文章を読み、段落のつながりを理解し、論説文の展開について(意欲をもって)とらえようとしている。</p> <p>②論の展開をとらえようと、具体例や筆者の意見を読み分けようとしている。</p> <p>③自分なりの考えをもち論説文の形式を意識した評論文を書こうとしている。</p>	<p>①筆者の考えを表す語句の意味を踏まえ、文章を(的確に)理解している。</p> <p>②具体的事例とその後の論理展開について読み取っている。</p> <p>③筆者の主張を踏まえて自分の考えをもち、評論文の構想を組み立てている。</p>	<p>①筆者が文章の中で用いている語句の意味と他の本や新聞で用いられている意味の違いに気付いている。</p>
--------------	---	---	--

## 5 指導と評価の計画 (全6時間)

	主な学習活動	学習内容	評価規準・評価方法
1	<p>○単元の学習内容を知る。</p> <p>○全文通読し、筆者の主張を読み取る。</p> <p>○文章の構成を確認する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・単元の見通し</li> <li>・資料の全文通読</li> <li>・序論－本論－結論</li> </ul>	<p>アの①</p> <p>エの①</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・机間指導による観察</li> <li>・ノートによる観察</li> </ul>
2	<p>○序論の役割を読み取る。</p> <p>○前半部分(第2～7段落)を読み、「ドラミング」のもつ意味について読み取る。</p> <p>○ドラミングが人間に誤解されるに至った経緯をまとめる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・序論の役割</li> <li>・段落の要点</li> <li>・段落相互の関係</li> </ul>	<p>アの②</p> <p>エの②</p> <p>オの①</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・机間指導による観察</li> <li>・ノートによる観察</li> <li>・話合いの観察</li> </ul>
3 (本時)	<p>○後半部分(第8～10)段落から筆者の言う「物語」という語の意味について読み取る。</p> <p>○前半部分と後半部分の関係を考える。</p> <p>○文章全体と主張の関係を考える。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・段落の要点</li> <li>・段落相互の関係</li> <li>・文章の構成</li> </ul>	<p>アの②</p> <p>エの②</p> <p>オの①</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・机間指導による観察</li> <li>・ノートによる観察</li> <li>・話合いの観察</li> </ul>

4	○筆者の書き方の工夫を確かめ、効果的な論理の展開について考える。 ○筆者の言う「物語」という言葉の文脈上の意味について考える。	・論理の展開 ・辞書的な意味と文脈上の意味の相違	アの② エの② オの① ・机間指導による観察 ・ノートによる観察
5 ・ 6	○「平和な社会の構築に向けて」自分なりの意見文を作成する。 ○互いに意見文を読み合い、相互評価する。	・主張と根拠のつながった文章の書き方	アの③ エの③ ・机間指導による観察 ・作品 ・相互評価票

## 6 本時の学習指導（本時 3／6 時）

### （1）目標

- ・文章の構成や展開をもとに、文章中での「物語」の意味と主張のつながりを読み取る。  
(読むこと)

### （2）評価規準

	ア 国語への 関心・意欲・態度	エ 読む能力	オ 伝統的な言語文化と 国語の特質に関する事項
評価規準	②論の展開をとらえようと、具体例や筆者の意見を読み分けようとしている。	②具体的事例とその後の論理展開について読み取っている。	①筆者が文章の中で用いている語句の意味と他の本や新聞で用いられている意味の違いに気付いている。

### （3）展開

<b>【前時の学習内容】</b> ・序論の役割 ・(第2～7)段落の要点 ・段落相互の関係		
学習活動	・学習内容	指導と評価の創意工夫
1 本時のめあてを知る。	・課題把握	・本時の学習の概要を知らせる。
<div style="border: 3px double black; padding: 5px; display: inline-block;"> 文章中での「物語」の意味と筆者の主張とのつながりを読み取る。 </div>		

<p>2 本論2(8～10段落)・結論を読む。</p> <p>①一斉音読 ②ペア読み ③一人読み</p> <p>3 後半部分から読み取ったことについてノートにまとめる。</p>	<p>・本論の展開 ・筆者の主張</p> <p>・本論の展開の仕方から読み取れる前時の具体例との関係</p>	<p>・キーワード「物語」に傍線を引きながら論の展開を追わせる。</p>
<p>①段落の冒頭や末尾、接続詞に着目して各段落を要約する。</p>	<p><b>【押さえる表現】</b>  <b>関係する表現</b>          脚色・誇張・誤解・間違い・悲劇・敵対意識・紛争・戦い・争い・衝突</p> <p><b>「物語」の前後の表現</b>          誤解に基づく・修復されないまま・独り歩き          作り上げ・真に受け・人から伝え聞いた</p> <p><b>要約</b></p> <p>⑧言葉は人間が飛躍的に発展する道を開いた一方で、自分の体験を脚色したり誇張したりする力もある。</p> <p>⑨誤解に基づく「物語」は、人間社会にも悲劇をもたらす。自分たちに都合のよい「物語」を作りあげ、世代間で継承し、果てしない戦いの心を抱き続ける。</p> <p>⑩誤解を解くためには、相手の立場に立って、一つ一つの行動にどんな意味があるかを考えることが必要である。</p>	
<p>4 内容を整理し、「物語」の意味を考える。</p> <p>①日常使う「物語」と教材文中で使われる「物語」の印象の違いを確かめる。</p>	<p><b>評価場面1</b></p> <p>〈学習活動に即した評価規準〉アの② エの② オの①          〈評価方法〉</p> <p>・様子や態度の観察・ノート          〈手立て〉</p> <p>・キーワードに注意しながら要点をまとめる。          ・「物語」という語に着目し、その前後の語から文のもつ意味を考える。</p> <hr/> <p>物語 = 作者により創作された話・作品          「物語」 = 都合よく解釈されたもの          印象を基に勝手に作り出したもの</p>	

<p>5 前半部分と後半部分の「物語」について書かれている部分の関係をもとに、筆者の主張とのつながりを考える。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「物語」の意味 意見の比較 意見の総括</li> <li>・筆者の主張 指示語・キーワード</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第1時で確認した筆者の主張と今回読み取った本論の内容が、11段落で総括的に説明されていることに気付かせたい。</li> </ul>
<p>①4人1組の班で、各々がどのようにとらえたか話し合う。</p>	<p><b>【主張に対して】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・誤解を解くためには、相手の立場に立って…</li> <li>・人から伝え聞いた「物語」と実際に…</li> <li>・誤解を超えた先には…</li> </ul>	
<p>②話合いをまとめる。</p> <p>11段落を改めて音読し、「ゴリラのドラミングの誤解」(具体)が、「文化や社会を理解すること」(抽象)につながることを確かめる。</p>	<p><b>評価場面2</b></p> <p>〈学習活動に即した評価規準〉アの② エの② オの① 〈評価方法〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・様子や態度の観察 〈手立て〉</li> <li>・具体例が一般化されるまでの展開を、一つ一つ順を追って読み取っていく。</li> </ul>	
<p>②話合いをまとめる。</p> <p>11段落を改めて音読し、「ゴリラのドラミングの誤解」(具体)が、「文化や社会を理解すること」(抽象)につながることを確かめる。</p>	<p><b>【押さえる表現】</b></p> <p>「物語」の誤解を超えた先には、「ゴリラが人間とは別の表現を用いて平和を保っている」という新しい価値をもつ豊かな世界が広がっていた。この地球に生きるさまざまな人々に起きている「物語」の真実を知るためには、その人々が暮らしている文化や社会をよく理解することが必要であろう。</p>	
<p>6 本時の振り返りをし、次時の学習を知る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・次時の学習内容</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本時の活動の成果を確認し、次時の活動への意欲付けをする。</li> </ul>
<p><b>【次時の学習内容】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・論理の展開・辞書的な意味と文脈上の意味の相違</li> </ul>		